

第2回福島眼科スプリングセミナー

【 専門医制度認定事業 No.29251 : 会場参加 2単位 Web参加 1単位 】

謹啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、下記の要領にて『第2回福島眼科スプリングセミナー』を開催いたします。

本会は今般の状況を鑑みて、ハイブリッド開催での運びとなりました。

ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせのうえご参加賜りますようご案内申し上げます。

謹白

日時：2022年 2月26日(土)17:00～19:00

会場：ホテルハマツ 2階「開成の間」

福島県郡山市虎丸町3番18号 TEL：024-935-1111

会費：1,000円

座長：福島県立医科大学眼科学講座 教授 石龍 鉄樹 先生

【特別講演Ⅰ】

演題：『眼科手術とマイボーム腺機能不全の密なる関係
～術後患者満足度向上のため～』

演者：伊藤医院 眼科 副院長 / LIME研究会代表
有田 玲子 先生

【特別講演Ⅱ】

演題：『眼底画像をフル活用！
加齢黄斑変性の鑑別診断と経過観察時の診断のポイント』

演者：日本大学医学部視覚科学系眼科学分野 診療教授
森 隆三郎 先生

※会場参加/Web参加、どちらも事前登録が必要です。登録方法をご確認ください。
※新型コロナウイルスの感染状況によっては、Web開催のみに切り替わる場合がございます。
※感染防止対策の観点より、情報交換会は実施いたしません。会場にてお弁当を準備いたします。

共催：福島眼科スプリングセミナー / 千寿製薬株式会社

第2回福島眼科スプリングセミナー

【特別講演Ⅰ】

『眼科手術とマイボーム腺機能不全の密なる関係 ～術後患者満足度向上のため～』
伊藤医院 眼科 副院長 / LIME研究会代表 有田 玲子

マイボーム腺機能不全 (Meibomian Gland Dysfunction, MGD) は眼瞼炎の一因であり、蒸発亢進型ドライアイの主因である。

日常の一般診療において私たち眼科医が遭遇する最も頻度の高い疾患のひとつだが失明しない疾患でもあり、見過ごされることが多かった。

しかしながらその眼不快感に悩まされる患者は多く、症状も長期にわたる場合が多い。

MGDはここ数年、根本治療ともなりうる治療オプションが複数出現してきたため前眼部の専門家にとってはもちろん、内眼手術後のMGDが術後不満足 of 4割を占めることが明らかになるにつれ、眼科サージャンにも治療すべき疾患として国際的に注目を浴びているHOTな疾患である。

また昨今のコロナ禍におけるVDT使用時間の増加に伴うMGD患者の増加は明らかで、近年、特に「瞼」に対する重要性が高まっていることは言うまでもない。

本セミナーでは実際のMGD患者の臨床例をまじえながら、アジスロマイシン点眼液の最適な適応症例、患者への服薬指導、セルフケア、世界最先端の話題までの一連を披露し、明日からの臨床に役に立つ内容をお届けする。

【特別講演Ⅱ】

『眼底画像をフル活用！加齢黄斑変性の鑑別診断と経過観察時の診断のポイント』
日本大学医学部視覚科学系眼科学分野 診療教授 森 隆三郎

視力低下や歪視の原因となる所見が黄斑部にあることはOCTにより容易に確認できるようになっているが、確定診断とするには苦慮する症例もある。加齢黄斑変性 (AMD) の所見は様々であるが、他の黄斑疾患でも類似した所見があり、抗VEGF注射の適応も異なるので、AMDとの鑑別は重要である。滲出型AMDでは、確定診断となる主要所見がある一方、高頻度で見られるが特異度が高くない随伴所見である滲出性変化と網膜出血があるが、随伴所見のみでAMDと診断してしまい、後に網膜細動脈瘤や脈絡膜腫瘍など他の眼底疾患であったという症例もある。また、OCTで網膜下高反射病巣としてみられるacquired vitelliform lesions (AVLs) や網膜色素上皮の扁平隆起病巣としてみられるpachychoroid neovascularopathy (PNV) などの病巣や病態は新たに定義されたものもあり、これらの所見も鑑別する必要がある。萎縮型AMDでは、地図上萎縮病巣が網膜色素上皮裂孔に伴う網膜色素上皮欠損部位や黄斑ジストロフィなどの所見と類似するため、これらを除外する必要がある。

滲出型AMDの治療の第一選択は抗VEGF注射で、長期に視機能を維持するためにFluid Controlの重要性も注目されている。OCTで滲出性の所見 <Fluid> を、網膜内液 (IRF)、網膜下液 (SRF)、網膜色素上皮下 (sub-RPE) fluidに分類し、それぞれの所見に応じて再治療の適応を判断する。

講演では、カラー眼底写真、眼底自発蛍光、OCT、OCT angiographyなど眼底画像を提示し、AMDの鑑別診断と経過観察時の診断のポイントについて解説する。